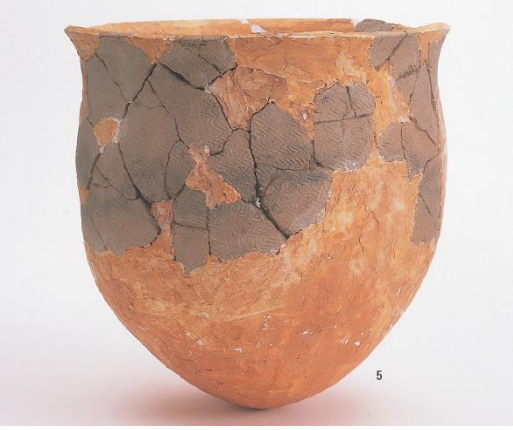
【県指定・有形文化財（考古資料）】

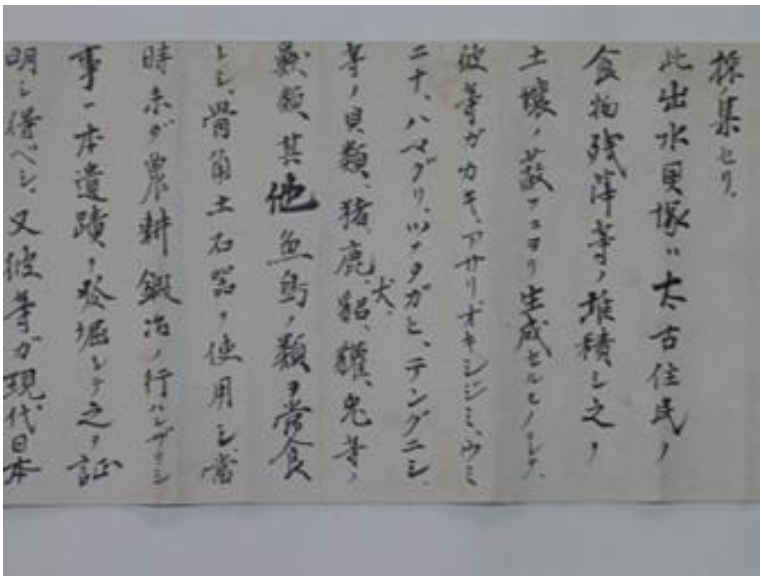
出水貝塚出土品　附　書簡（令和４年４月 26 日指定）



押型文土器

出水貝塚出土品（出水式土器）

石製垂飾品



出水貝塚発掘調査に係る書簡

○　**所在地**　　出水市武本 3189－１　埋蔵文化財作業室・収蔵庫
　　個人蔵

○　**所有者**　　鹿児島県，個人

○　**特　徴**

出水貝塚では，大正９（1920）年から平成 10 年までの間に計６回の発掘調査が行われました。縄文時代早期，中期～後期の遺物が出土しており，出水式土器の標式遺跡となっています。

縄文時代早期の層からは押型文土器がまとまって出土したほか，縄文時代中期～後期の層からは阿高式土器や南福寺式土器・出水式土器・市来式土器などが出土しました。

そのほか，石器・貝製品・骨角器も出土しています。中でも転用したと考えられる石製垂飾品は再利用の例として重要です。また，縄文時代の人骨も出土しています。

今回追加指定となった，大正９年の発掘調査に係る長谷部言人，濱田耕作，島田貞彦らによる書簡は，当時我が国の人類学界や考古学界で活躍していた研究者の直筆資料であり，調査当時の雰囲気を感じさせる貴重な資料です。